

# ～チャレンジ桜井～



日本の伝統や文化を継承していくために

校長 金子 祐治

2023年、年末に発表された「今年の漢字」は1位「税」、2位「暑」3位「戦」でした。昨年は「戦」、「今年こそ負の戦いが終わり、平和な世の中がやってくることを信じ、そして2023年の『今年の漢字』は、平和を象徴する1文字になるように願っています。」と昨年の学校だよりに書きましたが、国内では年初から2つの災害や事故が起こり、世界では2つの戦争が継続していて平和と呼べるには程遠いようです。関係の方々、世界中の人が、一刻も早く日常の生活、平和な日々を取り戻すことが出来るよう心から祈っています。

さて、先日ある記事に目が留まりました。子どもたちが年賀状に接する機会が減少し「小学校6年で自分の住所を正しく言える児童は60.6%にとどまる。平成24年には84.5%の子どもが言えたので2割減。」(日本郵便調べ)と書かれてありました。近年、年賀状を書くことをやめたり、葉書の代わりにSNSなどを利用したりする人も増えてきています。しかしながら、年賀状、手紙、葉書など、手書きで文をしたためることは大切なことだと思います。「自分の住所が言えない児童の増加は、地域社会理解のための基礎的知識の不足や地域社会の一員としての意識の低下など、様々な負の影響をもたらす。各学校での手書きの年賀状作りの活動を通して日本のよき手紙文化を継承したい。」ともありました。本校では、1, 2, 3年生に冬休みの宿題で「全日本年賀状コンクール」への参加を呼びかけました。手紙以外にも、12月には5年生が、瀬上さとやまのりの会からいただいたお米と、自分たちで作ったお米を使って餅つきを行い、鏡餅を作成しました。1月には全学年実施の「書初め」、1年生が地域の方と行う「昔遊び」も予定していて、児童が日本の伝統的な文化に触れる機会を設けています。8日に行われた子之神日枝神社「どんと焼き」にも参加した児童がたくさんいました。学習指導要領にも位置付けられている「伝統と文化の尊重」に関する内容を、これからも本校のカリキュラムに様々な形で活動等を取り入れ、国や郷土を愛する心を育てていきたいです。

今年度も残り3か月となりました。準備をしっかりして、進級、進学に備えていきます。様々なことにさらに「チャレンジ」をしていきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。みんなが笑顔で過ごせる1年になりますように。



5年生成成「鏡餅」